

重点目標	具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
① 組織的なキャリア教育の取組の推進	① 保護者が興味を持って参加できる進路に関する講演会を年2回行う。	進路支援課	前年度も同じ目標設定を行ったが1回目が56%、2回目が12%で平均で34%であった。高等部卒業学年になると保護者の関心も高いが中学部、小学部の保護者に関心を持ってもらうことが課題である。	[成果指標] 進路講演会への保護者の参加率で評価する。	進路に関する講演会(2回)の参加率が A: 70%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しを図る。	年度末に割合で評価
	② 児童・生徒の挨拶等の社会的マナーの向上を図る。	進路支援課	前年度は朝の挨拶ができる生徒の割合が促されてできる生徒を含めて100%になった。教員が先に挨拶すればできる子が多いが自分から挨拶ができる子は少ない。	[成果指標] 帰りの会の一斉挨拶とは別に下校時に玄関や廊下で職員や外部の方に会った時自分から先に挨拶ができる児童生徒の割合で評価する。	帰りに自分から先に挨拶できる児童生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しを図る。	年度末に割合で評価
② 地域のニーズに応じた教育相談の充実及び外部専門家活用	① 専門相談に際して事前シートを活用し、小中高校において特別支援教育を推進する力の向上を図る。	自立支援課	25年度から事前シートの記入を始めたことで、派遣依頼の前に、校内での取り組みが促進された。しかし検査依頼にはほとんど事前シートの提出がないため、事前の情報不足を感じている。	[成果指標] 専門相談の依頼を受けた時点で事前シートの記入を依頼し、事前シートを活用した専門相談の割合で評価する。	事前シートを活用した専門相談の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しを図る。	年度末に割合で評価
	② 地域の関係機関や外部専門家と連携し、校内外のニーズに応じた支援を行う。	自立支援課	センター的機能充実事業の予算により、昨年度から校内での外部専門家活用を行っている。今年度はさらに回数を増やし、小中高校のニーズにも対応できるようにしたい。	[成果指標] 地域の関係機関や外部専門家を活用した回数で評価する。	地域の関係機関や外部専門家を活用した回数が A: 17回以上 B: 16回 C: 15回 D: 14回以下	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しを図る。	年度末に回数で評価

重点目標	具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度 判断基準	判定基準	備考
③ 特別支援教育の専門性と授業力を高める 校内研究の推進と充実	① 外部講師を招いた研究授業を通して、課題を明らかにし、授業改善を図る。	学習支援課	1学期に各学部研究授業を行い、そこで指摘された課題について2学期以降に教育センターのサポート研修を活用し、工夫改善をめざして研究授業を行った。また外部専門家に見てもらい具体的な支援の仕方や行動解釈などを研修することで専門性を高め授業改善を図る必要がある。	[成果指標] 学部ごとに同じ教科あるいは領域で、指導主事等を招いた研究授業を行う。研究テーマに照らして課題を明らかにし、改善をめざし研究授業の回数で評価する。	授業力向上のための研究授業を、各学部ごとに2回以上、総合計で A：7回以上 B：6回 C：5回 D：4回以下	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しをする。	年度末に回数で評価
	② 障害特性や個に応じた教材・教具の開発を図る。	学習支援課	昨年度、ほぼすべての教員が教材・教具を発表できた。複数回発表する教員もいた。引き続き取り組むことで新しい刺激を受け、互いに指導の充実を図ることが大切である。	[成果指標] 教員が個人あるいは複数で、特性や個に応じた教材教具について情報交換することをめざし、発表したのべ回数で評価する。	個人や複数で制作した教材・教具の発表回数が、総合計で A：25回以上 B：20回 C：17回 D：16回以下	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しをする。	年度末に回数で評価
④ 学校安全教育及び環境教育の推進	① 健康教育と感染症対策等の充実、向上を図る。	生活支援課	健康に対する児童生徒の意識はある程度育ってきているが、感染症に対する知識や意識は弱くその充実が望まれる。	[成果指標] 各部に応じた取り組み内容で、実践した授業や活動の回数で評価する。	実践した授業や活動の回数が A：5回以上 B：4回 C：3回 D：2回以下	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しをする。	年度末に回数で評価
	② 学部、学年に応じた環境意識の向上を図るため、子どもにわかりやすい実践と特色ある活動を行う。	生活支援課	環境意識は委員会活動等により向上してきている。引き続き、子どもの実態に応じた活動を行い、意識や実践力の向上を期待したい。	[成果指標] エコ意識を高めるために発達段階に応じた環境教育の授業を実施した回数で評価する。	環境教育の授業を実施できた合計回数が A：5回以上 B：4回 C：3回 D：2回以下	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しをする。	年度末に回数で評価